



和寒神社 先代宮司夫人

吉田 雅

子(よしだ まさこ)さん

地域とともに、稚児舞の伝統を継承していきたい

◆稚児舞のはじまり

お祭りの奉納行事の一つとして親しまれてきた稚児舞が、現在もお継承されているのは、道内では和寒神社だけとされている。

稚児舞の歴史は、和寒神社が昭和13年に創立された頃から昭和19年頃までは継続されていたと思われる。戦時中のためか、その活

動は一度途絶えることとなる。しかし、昭和28年、戦後めまぐるしく変化するなか、お神輿さんが和寒神社に奉納されたことをきっかけに、

当時和寒高等学校の教諭であった故多田キエノさんが、町内会婦人会に呼びかけ、稚児舞奉納婦人会を結成したことからはじまった。

◆7種類の舞

稚児舞は、4人1組で構成され、現在7種類の舞がある。

当時は、小学生の男女から高校生までが舞ったものであるが、現在では、小学1年生が担当する『神の舞』から始まり、学年が進むにつれて『末広の舞』『太平楽の舞』『羽返しの舞』『早乙女の舞』『鈴上げの舞』そして『浦安の舞』と9年間奉納し、中学校3年生で卒業となる。

最初の6種類は、先々代宮司である故吉田源二郎さんが指導してきたが、現在は、全パートを覚えている中学3年生が、はじめて習う小学1年生や後輩たちに教えていき、毎年その伝統的な舞が後輩たちへと受け継がれている。

また、年々継承し保存してきた努力が各方面で評価され、昭和63年には北海道コミュニティ補助事業の助成を受け『浦安の舞』の正装

束が婦人会の財産となり、伝統的な稚児舞を継承していくための励みとなっている。平成14年には、NHKのテレビ番組でも紹介された。

特に中学3年生が披露する浦安の舞は、全国各地で奉納されている舞であり、吉田さん自身が習得し継承しているもので、高学年になると和寒神社祭が始まる約1か月前から毎日練習が行われている。

◆稚児舞の継承

稚児舞は、今年で57年という長い伝統を受け継いできた。

その指導を行ってきた吉田さんは「これまで和寒神社で稚児舞が継承されてきたのは、稚児舞奉納婦人会をはじめとした地域の皆さんの情熱によるもの。これからも地域の皆さんとともに稚児舞の伝統を継承していきたい」と笑顔で語ってくれました。



吉田 雅子さん[和寒神社先代宮司夫人] 59歳
和寒町字西町 TEL0165-32-2234
出身：比布町
経歴：1963年 比布小学校卒業 1966年 比布中学校卒業
1969年 旭川西高等学校卒業 同年 北海道電力株式会社に勤務
1974年 結婚により本町へ
趣味：コーラス、読書